

3. 流域の社会状況

3.1 人口

昭和55年～平成17年の日野川流域関連市町村の人口の推移を表3.1.1に示す。

日野川では人口の約8割が下流域に集中し、下流域の人口は増加傾向にあるが、上・中流域の人口は減少傾向にある。日野川流域全体での人口は増加傾向にあるため、上・中流域の人口減少が著しいことがうかがえる。これは、下流域に資産が集中しているためである。

表 3.1.1 日野川水系流域関連市町村の人口の推移（国勢調査結果による）

（単位：人）

流域 市町村	下流域			中・上流域								合計
	合併後	日吉津村	小計	南部町		江府町	伯耆町		日南町	日野町	小計	
	合併前	米子市		西伯町	会見町	江府町	岸本町	溝口町	日南町	日野町		
昭和55年	127,374	2,552	138,605	8,459	4,013	5,015	6,065	6,006	8,889	6,092	44,539	183,144
昭和60年	131,792	2,799	143,414	8,702	4,152	4,757	6,447	5,899	8,470	5,792	44,219	187,633
平成2年	131,453	2,830	143,333	8,610	4,152	4,528	6,816	5,814	7,974	5,377	43,283	186,616
平成7年	134,762	2,760	146,616	8,366	3,979	4,316	7,100	5,609	7,382	4,921	41,673	188,289
平成12年	138,756	2,971	150,808	8,168	4,042	3,921	7,271	5,392	6,696	4,516	40,006	190,814
平成17年	149,584	3,073	152,657	12,070		3,643	12,343		6,112	4,185	38,353	191,010

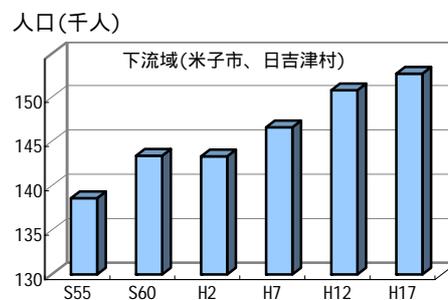
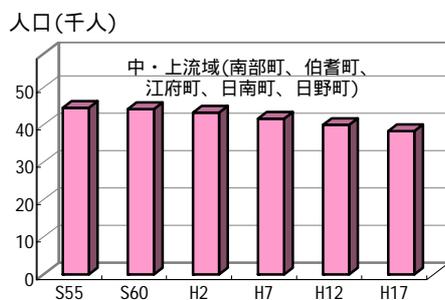
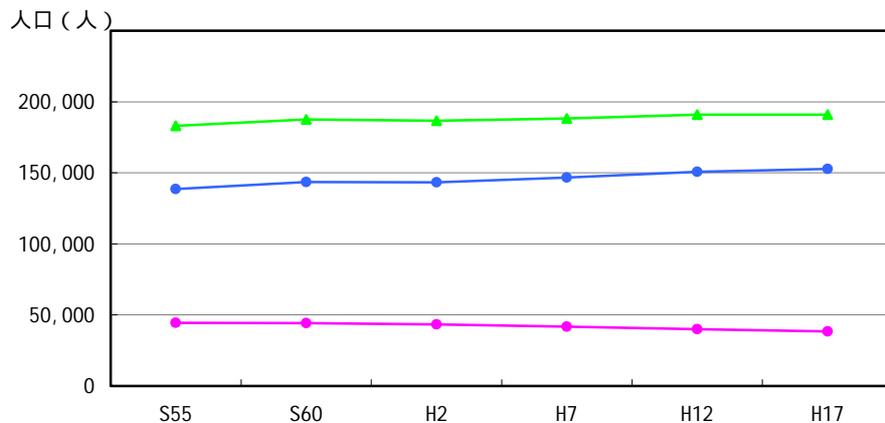


図 3.1.1 日野川水系流域関連市町村の人口の推移

3.2 土地利用

土地利用計画からみた日野川流域の土地利用は、流域の約 92%を山地等が占めている。

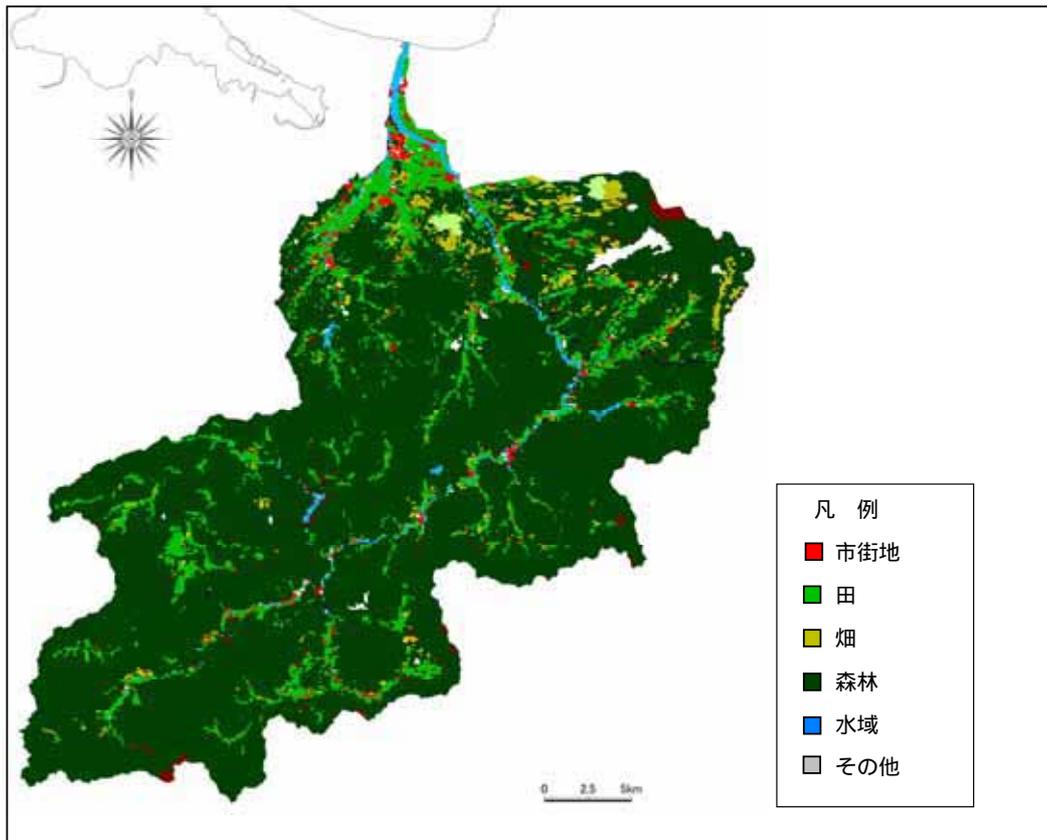
上・中流域では山地の割合が多いのに対し、下流域では農地の割合が多い。

下流域では、市街化区域・用途地域、市街化調整区域の都市地域の割合が全体の約 20%を占めるのに対し、上・中流域では約 1%程度にとどまる。また、農業地域は下流が約 80%であるのに対し、上・中流域では約 40%である。

表 3.2.1 日野川流域の土地利用

区域	流域面積 (km ²)	人口集中 地区面積 (km ²)	土地利用計画面積(km ²)						
			都市地域			農業 地域	森林 地域	自然公園 地域	自然保全 地域
			総面積	市街化区域 ・用途地域	市街化調整 区域				
日野川水系	870	2.9	18.8	4.6	13.7	335.5	694.8	102.3	0
割合(%)		0.3	2.2	0.5	1.6	38.6	79.9	11.8	0.0
大臣管理区間小計	44.6	0.7	8.4	1	7.5	33.9	20.4	6.4	0
割合(%)		1.6	18.8	2.2	16.8	76.0	45.7	14.3	0.0
県管理区間小計	825.4	2.2	10.4	3.6	6.2	301.6	674.4	95.9	0
割合(%)		0.3	1.3	0.4	0.8	36.5	81.7	11.6	0.0

土地利用計画面積の各用途は重複する区域があるため、合計値は流域面積より大きくなる。



【出典】

「国土交通省国土計画局総務課国土情報整備室 国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ」より作成

図 3.2.1 日野川流域の土地利用区分図

3.3 産業・経済

平成13年～平成18年の日野川流域関連市町村の産業別就業者数の推移を表3.3.1及び図3.3.1に示す。

上・中流域は、第三次産業就業者数の増加に比べ第二次産業就業者人数の減少が大きいいため、就業者の合計数は減少傾向にある。

下流域では、労働人口の約90%が集中しており、第三次産業就業者の比率が高い。

全体的に、第一次産業の衰退が激しく、第二次産業から第三次産業へと移行しているといえる。

表 3.3.1 日野川流域関連市町村の産業別人口の推移（国勢調査）（単位：人）

流域	市町村	下流域			中・上流域								合計	
		合併後	米子市	日吉津村	南部町		江府町	伯耆町		日南町	日野町			
		合併前	米子市	日吉津村	小計	西伯町	会見町	江府町	岸本町	溝口町	日南町	日野町		小計
平成13年	第一次産業		127	4	131	18	18	17	38	24	118	14	247	378
	第二次産業		16,631	507	17,138	1,034	216	460	638	708	847	677	4,580	21,718
	第三次産業		50,911	1,624	52,535	857	337	545	1,190	881	780	766	5,356	57,891
	合計		67,669	2,135	69,804	1,909	571	1,022	1,866	1,613	1,745	1,457	10,183	79,987
平成16年	第一次産業		92	26	118	5	2	4	61	6	137	16	231	349
	第二次産業		13,924	403	14,327	902	236	409	477	722	618	487	3,851	18,178
	第三次産業		46,942	1,735	48,677	799	311	543	1,229	845	859	740	5,326	54,003
	合計		60,958	2,164	63,122	1,706	549	956	1,767	1,573	1,614	1,243	9,408	72,530
平成18年	第一次産業		75	3	78	28		-	69		102	15	214	292
	第二次産業		14,014	437	14,451	1,146		358	1,061		474	354	3,393	17,844
	第三次産業		51,736	1,893	53,629	1,272		510	2,175		789	811	5,557	59,186
	合計		65,825	2,333	68,158	2,446		868	3,305		1,365	1,180	9,164	77,322

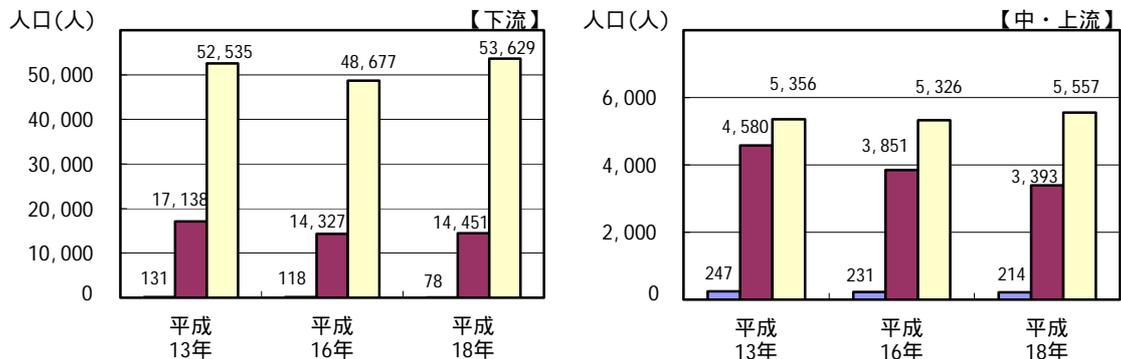
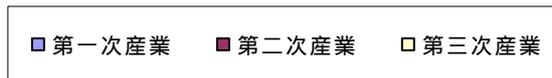


図 3.3.1 日野川流域関連市町村の産業別就業者人口の推移（国勢調査）

平成 10 年～平成 18 年の日野川流域内の地域別観光入込客数の推移を及び表 3.3.2～表 3.3.3 及び図 3.3.2 に示す。

米子・皆生温泉周辺地域は、多少の減少傾向にあるが、皆生温泉への観光客は、鳥取県内の温泉の中で最も多い。

大山周辺地域は、平成 18 年度はスキー客の減少により前年より減少しているが、近年では概ね横ばいである。

奥日野周辺地域は、概ね横ばいである。

全体的に、近年では、概ね横ばいの傾向で推移している。

表 3.3.2 地域別観光入込客数（実人数）（H18 観光客入込動態調査）

（単位：千人）

エリア名	観光入込客数(千人)		対前年比		主な増減要因
	H18	H17	増減数	率(%)	
米子・皆生温泉周辺	1,370	1,383	-13	99.1	
大山周辺	1,271	1,343	-72	94.6	スキー客の減少等
奥日野周辺	119	103	16	115.5	
合計	1,390	1,446	-56	96.1	

米子・皆生温泉周辺：米子市（淀江町の一部を除く）、日吉津村
 大山周辺：南部町、伯耆町、米子市（淀江町の一部） 大山町（旧中山町を除く） 江府町
 奥日野周辺：日南町、日野町

表 3.3.3 地域別観光入込客数（実人数）の推移（観光客入込動態調査）

（単位：千人）

エリア名	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
米子・皆生温泉周辺	1,456	1,490	1,457	1,517	1,525	1,462	1,173	1,383	1,370
大山周辺	1,020	1,601	1,241	1,247	1,321	1,300	1,220	1,343	1,271
奥日野周辺	146	128	131	104	111	105	89	103	119
合計	2,622	3,219	2,829	2,868	2,957	2,867	2,482	2,829	2,760

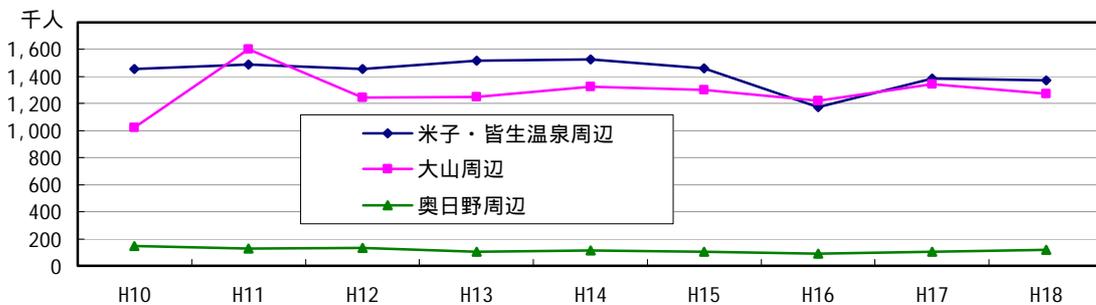


図 3.3.2 地域別観光入込客数（実人数）の推移

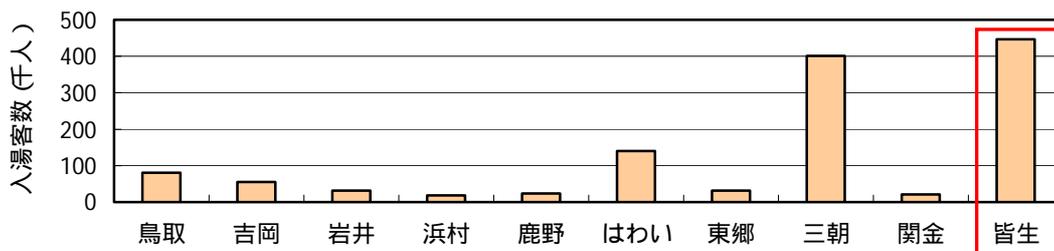


図 3.3.3 鳥取県内温泉地の入湯者数（平成 18 年度：観光客入込動態調査）

日野川流域関連市町村の平成 18 年の市町村別工業出荷額の結果を表 3.3.4 に示す。

平成 18 年の工業出荷額は、上・中流域（南部町・江府町・伯耆町・日南町・日野町）は約 198 億円、下流域（米子市、日吉津村）は約 2,540 億円である。

上・中流域では、下流域に近い南部町が約 110 億（56%）とウエイトが高くなっている。下流部では、米子市が約 2520 億（99%）となっており、飲料・たばこ・飼料、パルプ・紙、電子部品・デバイスのお荷額が高い。

下流部は、工業地域を形成しており、この地域の流域に占める重要性がうかがえる。

表 3.3.4 日野川流域関連市町村の工業出荷額（平成 18 年）

（単位：万円）

合併後 合併前	下流		中・上流						
	米子市	日吉津村	南部町		江府町	伯耆町		日南町	日野町
	米子市	日吉津村	西伯町	会見町	江府町	岸本町	溝口町	日南町	日野町
食料品	3,116,456		X		X		25,120	X	X
飲料・たばこ・飼料	10,298,097				X	X			
繊維	X								
衣服	201,482		X		-		65,054		X
製材	162,757		X				21,365	31,497	
家具	61,494		X						X
パルプ・紙	6,139,357						X		
出版・印刷	311,151								X
化学	X								X
石油	104,294		X						X
プラスチック	X		X				X		
ゴム	X								
皮革							-		
窯業・土石	225,203				104,707		X	X	X
鉄鋼	603,072		X						
金属	546,399	X					X		X
一般機械	847,899	X	X						
電気機械	363,006		X				-		X
情報通信機械	-		-						
電子部品・デバイス	2,108,282	X					X	-	
輸送用機械	-		X					-	
精密機械	X								
その他の製品	44,148								
計	25,231,878	158,771		1,107,701	126,430		524,535	41,981	177,358
合計	25,390,649		1,978,005						

値は、製造品出荷額等の製造品出荷額を使用
Xは秘匿数字（公表できない数値）

出典：鳥取県工業統計調査

3.4 交通

鳥取県下の河川で、藩政当時から川舟又はいかだを通わせていたのは、千代川・天神川・日野川であった。ただし日野川は河床の堆積物が多く水深が浅いこともあって、水運にとって必ずしも好都合ではなかった。また、山林はたたら製鉄のために現地でほとんど消費されたのでいかだ流しも他の川ほど盛んではなかった。日野川の川舟利用は製鉄業のためのものであり、部分的かつ短期間に行われたにすぎなかった。

一方、法勝寺川は、今日よりも川幅が狭く深かったので川舟の使用が可能であり、日野川よりも舟運に利用されていた。

現在の交通網

鉄道

流域内の鉄道は県内の東西を結び、さらに京都、下関につながる JR 山陰本線と、米子～岡山間を結び山陽への窓口となっている JR 伯備線がある。

陸上交通

流域内の陸上交通は、県内を東西に結び、さらに京都、下関につながる国道 9 号線があり、南北に松江～米子～岡山を結ぶ国道 180 号線、米子～津山を結ぶ国道 181 号線、米子～広島を結ぶ国道 183 号線がある。これらを軸として主要地方道が有機的に連携している。国道 180 号線及び 181 号線は中国縦貫自動車道に直結しており、山陽、京阪神方面への道路輸送の軸となっている。中国横断自動車道岡山米子線も整備されている。

海上交通

海上輸送の拠点としては、近傍に重要湾境港及び地方港米子港があり、境港は内外の貿易港として機能している。境港については現在背後圏の物資の流通拠点として港湾施設や臨海港湾道路などの整備拡充がすすめられている。

空港

米子空港（美保飛行場）は、重要港湾境港のある境港市、山陰有数の商都米子市にまたがり、国際文化観光都市松江市からも車で 1 時間以内で到達する距離に位置しており、航空需要の増大とともに整備拡張を行い、山陰地方の空の玄関口として発展してきた。

平成 13 年 4 月には韓国ソウルとの国際定期便が就航開始し、国内路線は現在、東京、名古屋（中部国際空港）の 2 路線が就航している。

現在は中型ジェット機（B767、A320 等）が離着陸可能な空港として供用しているが、東京便における堅調な旅客数の増加 や、冬季の欠航等に対応するため、現在の滑走路 2,000m を大型機（B777 等）が離着陸可能となるよう、平成 20 年を目標に滑走路の 2,500m 化が進められており、国際定期便の就航など、空港機能の充実が図られている。